

12

たで科 ママコノシリヌグイ

ママコノシリヌグイ 継子の尻拭い

名前の由来：棘だらけの茎や葉から、
憎い継子の尻をこの草で拭うという
想像から

13



たで科 ギシギシ

ギンギン 羊蹄

名前の由来：京都の方言説もあるが詳細は不明。葉をすり合わせるとギンギンという音を出すことからこの名がある説

若芽は食用。根はしのねといい、薬用
(下剤)

14

いね科 エノコログサ



エノコログサ 狗尾草

名前の由来：花穂が犬の尾に似ていることから、犬っころ草が転じてエノコログサという様になったので漢字表記は**狗尾草**。

別称「ネコジャラシ：猫じゃらし」は花穂を猫の前で振るとじゃれつくことから。

穀物アワ（粟）の原種。日本に粟作が伝来した時、アワの雑草として伝わったと推測されている。

15

きく科 ハキダメギク



ハキダメギク 掃溜菊

名前の由来：牧野富太郎が世田谷・経堂で同行者に名前を聞かれ、生えていた場所から咄嗟に答えたのがこの花の名前になったという。

日本では1920年代～1930年代に報告され始めた。全国に分布した熱帯アメリカ原産の

16

あかね科 ヘクソカズラ



ヘクソカズラ 屁糞葛

日本の固有種

名前の由来：葉や茎に悪臭（匂いの成分・メルカプタン）があることから。

古名：クソカズラ 糞葛。屎葛。

万葉集(卷十六)

“かわらふじに 延ひおほとれる屎葛
絶ゆることなく宮仕えせむ”

かわらふじ:サイカチ(まめ科ジャケツイバラ亜科サイカチ属)

諺「屁糞葛も花盛り」

17

ナス科 ワルナスビ



ワルナスビ 悪茄子

1906年 千葉県御料牧場で牧野富太郎によって発見・命名された。以降、急速に全国に広がり、1980代ころより、有害植物と認識されるようになり、外来生物法で要注意外来生物に指定された。

命名の由来：花はナスやジャガイモに似ているが全草にソラニンを含み有毒であることから。

外来生物法

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(平成十六年六月二日法律第七十八号)

18

ナス科 アメリカヌホオズキ



アメリカイヌホオズキ

北アメリカ原産 1900年代半ばに渡来

イヌホウズキ 犬酸漿 史前帰化植物

別名：バカナス ホウズキやナスの仲間だが役に立たないことからイヌが付いた。

全草に有毒成分「ソラニン」を含み、食用不可。

発芽したジャガイモにも多く含む。

ソラニン：神経毒（コリンエステラーゼ阻害作用）

多摩丘陵にはこの仲間のヒヨドリジョウゴがある。

見分けは蔓性。

19

ひるがお科 ヒルガオ



ヒルガオ 昼顔 *Calystegia japonica*

学名が示すように日本の固有種。名が示すようにヒルガオ科の植物ですが、この科に属す植物にアサガオ、サツマイモが有る。

花言葉は「絆」。根が組み合っていることから。

地下茎で増え、一度増えると駆除が難しいため、雑草として扱われる。

近縁植物にコヒルガオ、帰化植物のセイヨウヒルガオがある。

「高まどの 野辺の容花（おかばな）おもかげに
みえつつ妹は忘れかねつも」 大伴家持

万葉時代には「おかばな」とよばれ、容姿端麗な女性を連想させるほど美しい花とされた。

20



うり科 カラスウリ



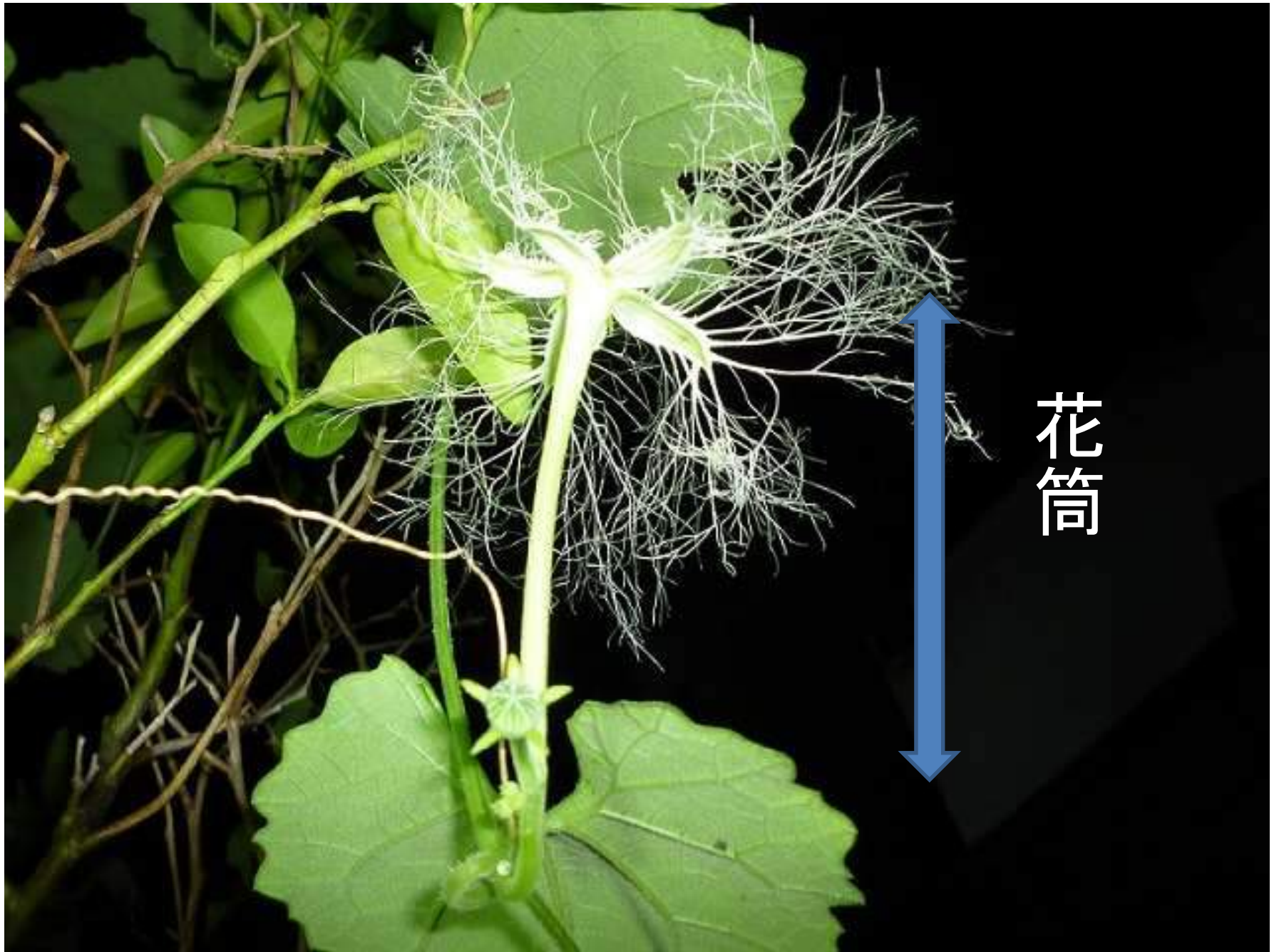
カラスウリ 烏瓜

別名：玉章（たまずさ）、ツチウリ、キツネノマクラ、ヤマウリ。原産地は日本・中国。雌雄異株。

名前の由来：カラスが好んで食べる？ 熟した赤い実がカラスが食べ残した様に見える？等の説がある。

花期は7月～9月、日没後から咲く

カラスウリの花は
なぜ夜咲くのでしょうか??



花筒

受粉の媒介は蛾の仲間「スズメガ」です。チョウやガの仲間は蜜を吸う器官「口吻」を使うがスズメガの仲間はこの口吻の長さが2cm～11cm、最長25cmにも及ぶ。

花筒の長いカラスウリはスズメガに来て貰う必要はある。 ⇒ 夜に咲く必要がある。なぜ？ **ガは夜行性**

スズメガの仲間は世界で1200種。幼虫をイモムシと呼んでいます。

スズメガ媒花にはカラスウリ、マツヨイグサ類、ハマユウ、サギソウ など